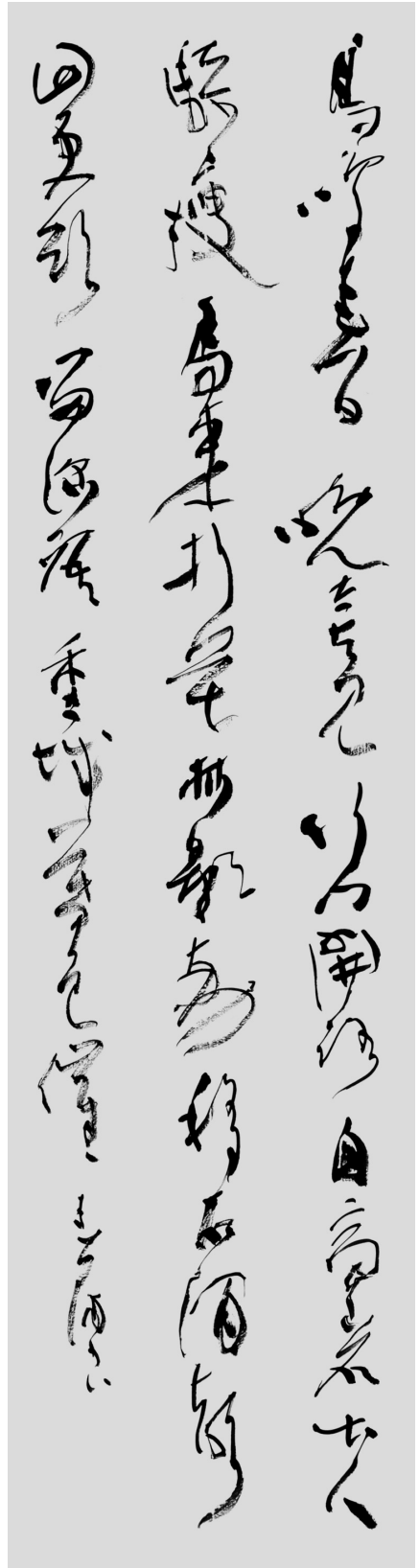


4月25日正午必着

明石春浦先生書



とりないでしゆんしゅくれ
鳥鳴春日晚
はなをおはりんえうこき
折し花林影動

よろこびみるちくもんひやくを
喜見竹門開
いしをうせはかんせいめ
移し石澗聲回

みちほこうがんによりいで
路自高岩出
さらじにどめでしんごせんたなつすれば
更欲二留深語一

ひとはそうばにきてきたる
人騎二瘦馬來
ちゆうしうぼよゆうなげ
重城暮色催

(周賀)

西 墨濤先生書



蘇東坡句
書

作字要手熟

則神氣完實而有餘韻。(蘇軾)

字を書くには手の習熟が必要である。「手が習熟すれば」精神力・気力が充実して、書に余韻が生まれる。

4月25日正午必着

明石幸子書



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

花枝出建章

鳳管發昭陽

借問承恩者

雙蛾幾許長

(皇甫冉)

夢與落花飛 (陳文述)

夢は落花興飛ぶ。

夢ははかなく落花と共に飛ぶ。

兩岸晚風黃鳥樹
一陂春水白鷗天 (高啓)

兩岸の晚風黃鳥の樹
一陂の春水白鷗の天

兩岸の樹には鶯が啼き、陂塘の清水には白鷗が遊んでいる。

靜林寺 (僧靈一)

靜林寺 僧靈一

靜林溪路遠 蕭帝有遺蹤

靜林 溪路遠く 蕭帝 遺蹤有り

水擊羅浮磬 山鳴于闐鐘

水は羅浮の磬を撃ち 山は于闐の鐘を鳴らす

燈傳三世火 樹老五株松

燈は伝う 三世の火 樹は老ゆ 五株の松

無數煙霞色 空聞昔臥龍

無數なり 煙霞の色 空しく聞く 昔の臥龍

洋館の椿をゆする疾ち風ピアノ鳴りつつ 弾音はやし (中村 憲吉)

半紙部規定課題A

4月25日正午必着

鋪才帚
席竹
催

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

4月25日正午必着

行書

鋪席 掃竹 催
鋪席 掃竹 催

隸書

鋪席 掃竹 催
鋪席 掃竹 催

明石春浦先生書

草書

鋪席 掃竹 催
鋪席 掃竹 催

行草書

鋪席 掃竹 催
鋪席 掃竹 催

回れる塘つたには、越この地の水が分れて流れており、年とし古ふるりた樹々には、呉ごの地の煙けむりがいつぱいにむらがる
竹たけは地を掃はらうかのように揺ゆれて、席せきを敷敷くように催もよほす（池塘いけづみのほとりには）蘿れんが垂たれ下りり、船ふねをつなぐのを待まちっているかのよう

鳥とりははじけたばかりの栗くりの実みをのぞきこみ、亀かめはなかなば傾かたむいている蓮れんの葉はの上うへにあがる
帰かえることを忘れてしまうこの庭園てい園をしばしば訪まねるたびに、俗事ぞくじに束縛そくばくされているこの身みを思い、深ふかいためいきをつく

秋日過しゅうじつ 徐氏園林じょしえん 包估ほうこ

回塘分越水かいとうぶんこくすい

古樹積吳煙こじゆせきごえん

掃竹催鋪席せうちくもよほせき

垂蘿待繫船すいれんまちけいせん

鳥窺新罇栗とりうかがしんしんくり

龜上半敬蓮かめかみかたけいれん

屢入忘歸地るいりふしきき

長嗟俗事牽ちやうさぞくじけん

秋日しゅうじつ 徐氏じょしが園林えんりんに過よぎる

包估ほうこ

回塘かいとう 越水こくすいを分わかち
古樹こじゆ 吳煙ごえんを積つむ
掃竹せうちく 席せきを鋪しかんことを催もよほし
垂蘿すいれん 船ふねを繫つなぐことを待まちつ
鳥とりは窺うかがう新あたらしに罇くり栗くり
亀かめは上かみ半かたば敬けいつ蓮れん
屢るいく帰かえることを忘わすれる地ちに入り
長ちやうく嗟さす 俗事ぞくじに牽けんがるること

(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

4月25日正午必着



羽衣曲也、明皇



曰、此月宮也、見僊女数百、皆素練寬衣、舞於広庭、明皇問曰、此何曲也、曰、霓裳羽衣曲也、明皇
(公遠)曰く、此れ月宮也と。仙女 数百 を見る。皆な素練寬衣にして、広庭に舞う。明皇 問いて曰く、此れ
 何の曲ぞ也と。曰く、霓裳羽衣の曲也と。明皇

三浦士岳先生臨書

清 楊峴・隸書仙傳拾遺語四屏

楊峴（一八一九〜一八九六）は清代末期の書家で学者。字は
 見山、庸齋・藐翁などと号した。浙江省帰安の人で、咸豐五年
 （一八五五）に挙人の称号を与えられ、江蘇省常州・松江府知
 事にいたった。幼少より詩文を学び、晩年は官を去り、読書、
 詩書の生活を送った。

楊峴の書は、六十歳までは曹全碑をベースに柔軟な線を多用
 し、あまり波磔を強調しない特徴があったとされているが、六
 十歳を過ぎた頃から漢隸の典型とされる礼器碑・乙瑛碑などを
 主とした強烈に誇張した波磔の隸書の完成へと至ったといわれ、
 特に礼器碑に没頭し、適麗で変化に富んだ筆致をもって一家を
 成し、清代の北碑派に個性的で新しい書風を開いたといわれて
 いる。

この作品は楊峴七十二歳の作。

（春濤）



(半折1/4)

刻^こ苦^く爲^い學^が

(宋史)

力を尽くし苦心して学問を
すること。

△做書参考作品▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



舞於広庭、明皇問曰、此何曲也、曰、霓裳羽衣曲也。



よう

さん

中学一年

雨宮春聲先生書



ふう

が

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



よう
陽

しゅん
春

小学五年

榎戸春龍先生書



かい
解

ひょう
氷

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着



てん

によ

小学三年

藤田幸春先生書



の

やま

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

こ い 小学一年・幼年



森戸春濤書

ジ ム 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

包	注
で	文
と	し
と	て
き	い
ま	た
ま	本
し	が
た	小

小学五年

先	気
生	持
の	ち
話	を
を	集
聞	中
い	し
た	て

小学六年

持	新
ち	学
を	期
新	を
た	む
に	か
す	え
	気

中 学

自	て
然	ゆ
の	っ
中	た
に	り
身	と
を	過
お	ぐ
い	す

一般(級位)

遠	遠
く	く
菜	菜
の	の
花	花
咲	咲
き	き
て	て
朝	朝
日	日
さ	さ
す	す
榎	榎
の	の
木	木
が	が
く	く
れ	れ
人	人
畑	畑
を	を
打	打
つ	つ

一般(段位)

遠く、菜の花咲き朝日さす
榎の木がくれ人畑を打つ (正岡子規)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

た	こ
け	い
の	
こ	つ
	く
か	し
に	

幼年

小	か
さ	わ
な	で
さ	お
か	よ
な	く

小学一年

二	た
ひ	の
き	し
の	く
子	あ
犬	そ
	ぶ

小学二年

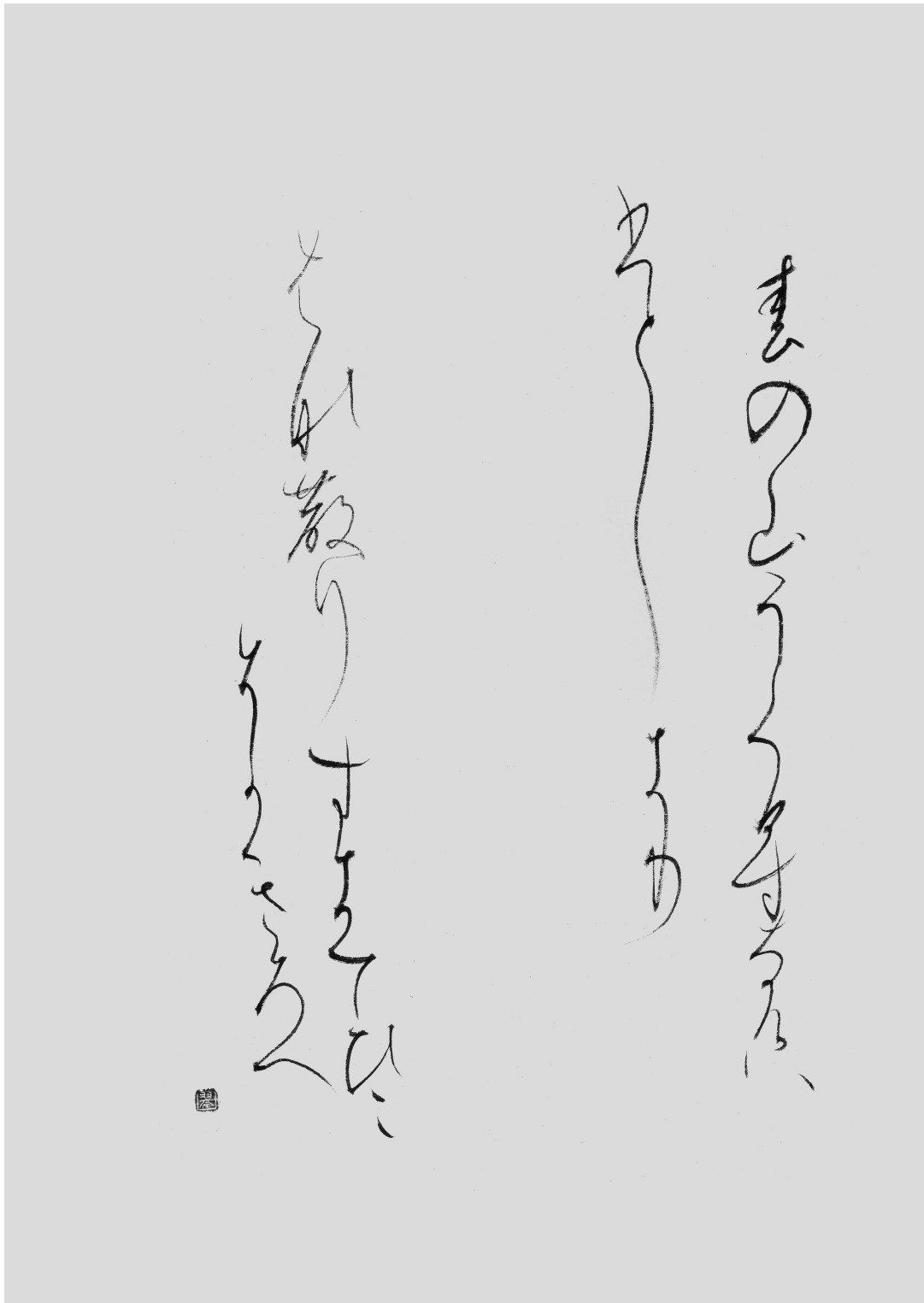
小	森
う	林
ま	こ
に	う
の	え
る	ん
	で

小学三年

も	春
明	の
る	花
く	が
な	さ
り	く
ま	と
す	心

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

春の山
うぐひすなけば
日寸奈介八
悲ひとしきり
支利はな散り
者那過ぎて
支ひこそかぎろへ
曾可
(石川啄木)